

Oblivescence
and
Trance

of

Methodologies

忘却と恍惚の方法論
-Methodologies of
Oblivescence and Trance

忘却
と
恍惚

方法論

of

Oblivescence
and
Trance

佐々木樹によるワークショップ

「ポエティック・トリップ」

- 会期中13:00-14:00/15:00-16:00 1日2回を予定
 - 所要時間約60分 ■人数制限なし ■事前予約なし
- 企画撮影協力：Dory 誠

佐々木樹

「ポエティック・トリップ (Poetic Trip)」の試み
詩的な何かを感じることは、現実をひとつの入り口としながらも、さまざまな世界との分岐をもって突如あらわれる。詩的な何かをつかむためには、観察を通じた回顧・想像などのような跳躍・潜在を通じた垂直的接近であると私は考えている。今回ひらかれる「ポエティック・トリップ (Poetic Trip)」は詩的な何かに繋がりにいこうとする試みである。
…簡潔に言えば、この会期中だけは、いまあなたが感じている世界からタイムリープをしてきたような状態、つまり別の世界線にやってきたという心持ちで、ある世界(大熊町)をトリップ(移動・超越)してみたいと考えているわけです。さまざまな人々の世界線が交錯することによって、これまでとは違った世界(大熊町)への接続ができる瞬間がともにみえたら嬉しく思います。

福島県双葉郡大熊町を舞台とした新しいフィールドワークの方法を探るものです。芸術家の田島悠史は「テクノ・フィールドワーク」詩人の佐々木樹は「ポエティック・トリップ」と称したアプローチからの成果を発表します。

田島悠史によるトークイベント

「この土地の可能性に酔い、過去を忘却する」

- 出演：山中理史(移住者)・木村裕・田島悠史
- 日時 2/10(土) 15:00より

田島悠史

「テクノフィールドワーク (Techno Fieldwork)」の試み
地域芸術祭の多くは、芸術家の探索的なフィールドワークで始める。そこでは「できるかぎり先入観や常識に基づく判断を排して、自らの感性に委ねてフィールドに向かうこと」が望ましい*。今回も、その手法で始めたが、この土地では歩くほど「原発」や「東日本大震災」等の情報に囚われてしまう。半ばヤケになり、ケミカル・ブラザーズを流しつつドライブをしていると、電柱や家々や太陽光パネルがMVの一場面に見え、異なる深度で風景を眺めている自分に気づいた。テクノミュージックは人を恍惚とさせ、一時的に忘却させる効果を持つ。それは強すぎる情報の力を薄める効果があるが、大熊に限らず、情報が爆発的に増え続ける現代社会に対して有効であると期待している。
*加藤文俊(2022)「態度としてのフィールドワーク：学会誌の「外」へ」

2024.2/9 fri - 2024.2/11 sun 11:00-17:00

KUMA・PRE

福島県双葉郡大熊町下野上大野98-1

※この事業は令和5年度地域経済政策推進事業費補助金(芸術家の中期滞在制作支援事業)の支援を受けています。お問合せ先:umakutodokanai@gmail.com